

和歌三

路考作
泉晁画



前編

2378
375



遠 13 特
2378
973

頼川路考作 繡像 綱史
負齋泉晁画 前後 四冊

和歌三々由来

文政十歳 司馬神明前
丁亥春 若狹屋
新版 若林堂 與市版



考思が格思の筆成りありあへる情あり神とい
周亦這御史の叙せまこと趣向を從
神文殊の智恵も及びて教字のそとに
不條と立て居れば源本文△○下
もくどうの思を具せられと心をりり新様の其家
いあり絲とも能優家の著述ヤ例に其日も三三系
人作老の老を志す酒のよりまされる春法玉は和歌乃
浦波も浪とよそを金糸と指の本ころろ人小は若れ神の
あふみ織ふ代もよらひ因ひて若狹屋のあをすまの香
出る傍る色をまると梅の赤中い古更かおみ柄イヨ
結綿連ふあねもこれ
具負のさむらひ大将
南仙笑林は満々也

文政十亥正月



三十一

三十一

天城山の賊徒



麒麟

大臣

勸懲之卷

山林不隱且富屋小入
材を棄て以窮民平
施一終二帝亡之
とく却而西報其
身或亡矣嗚呼應
恐去

蛇喰

子乃をたぢ

稚子姑蘇

大七





草環太郎
重光

豊浦の小性
錦戸
荒五郎
兼春

横島兼右工門秋行



熊野山の圖

吳亭
笠
玉
亀

時夕



儀

豊浦の家
臣

河
北
主
馬
之
助
房
安

一丁
 二丁
 三丁
 四丁
 五丁
 六丁
 七丁
 八丁
 九丁
 十丁
 十一丁
 十二丁
 十三丁
 十四丁
 十五丁
 十六丁
 十七丁
 十八丁
 十九丁
 二十丁
 二十一丁
 二十二丁
 二十三丁
 二十四丁
 二十五丁
 二十六丁
 二十七丁
 二十八丁
 二十九丁
 三十丁
 三十一丁
 三十二丁
 三十三丁
 三十四丁
 三十五丁
 三十六丁
 三十七丁
 三十八丁
 三十九丁
 四十丁
 四十一丁
 四十二丁
 四十三丁
 四十四丁
 四十五丁
 四十六丁
 四十七丁
 四十八丁
 四十九丁
 五十丁
 五十一丁
 五十二丁
 五十三丁
 五十四丁
 五十五丁
 五十六丁
 五十七丁
 五十八丁
 五十九丁
 六十丁
 六十一丁
 六十二丁
 六十三丁
 六十四丁
 六十五丁
 六十六丁
 六十七丁
 六十八丁
 六十九丁
 七十丁
 七十一丁
 七十二丁
 七十三丁
 七十四丁
 七十五丁
 七十六丁
 七十七丁
 七十八丁
 七十九丁
 八十丁
 八十一丁
 八十二丁
 八十三丁
 八十四丁
 八十五丁
 八十六丁
 八十七丁
 八十八丁
 八十九丁
 九十丁
 九十一丁
 九十二丁
 九十三丁
 九十四丁
 九十五丁
 九十六丁
 九十七丁
 九十八丁
 九十九丁
 一百丁
 一百一丁
 一百二丁
 一百三丁
 一百四丁
 一百五丁
 一百六丁
 一百七丁
 一百八丁
 一百九丁
 二百丁
 二百一丁
 二百二丁
 二百三丁
 二百四丁
 二百五丁
 二百六丁
 二百七丁
 二百八丁
 二百九丁
 三百丁
 三百一丁
 三百二丁
 三百三丁
 三百四丁
 三百五丁
 三百六丁
 三百七丁
 三百八丁
 三百九丁
 四百丁
 四百一丁
 四百二丁
 四百三丁
 四百四丁
 四百五丁
 四百六丁
 四百七丁
 四百八丁
 四百九丁
 五百丁
 五百一丁
 五百二丁
 五百三丁
 五百四丁
 五百五丁
 五百六丁
 五百七丁
 五百八丁
 五百九丁
 六百丁
 六百一丁
 六百二丁
 六百三丁
 六百四丁
 六百五丁
 六百六丁
 六百七丁
 六百八丁
 六百九丁
 七百丁
 七百一丁
 七百二丁
 七百三丁
 七百四丁
 七百五丁
 七百六丁
 七百七丁
 七百八丁
 七百九丁
 八百丁
 八百一丁
 八百二丁
 八百三丁
 八百四丁
 八百五丁
 八百六丁
 八百七丁
 八百八丁
 八百九丁
 九百丁
 九百一丁
 九百二丁
 九百三丁
 九百四丁
 九百五丁
 九百六丁
 九百七丁
 九百八丁
 九百九丁
 一千丁

三
 二
 一



主

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



三三三



泉晁画

泉晁画



路考作



泉晁の画は、人物の描写に長け、その筆致は力強く、神韻に富み、世に稱えられた。此の画は、その筆力と神韻の一斑を窺ふことが出来る。泉晁の画は、その筆力と神韻の一斑を窺ふことが出来る。



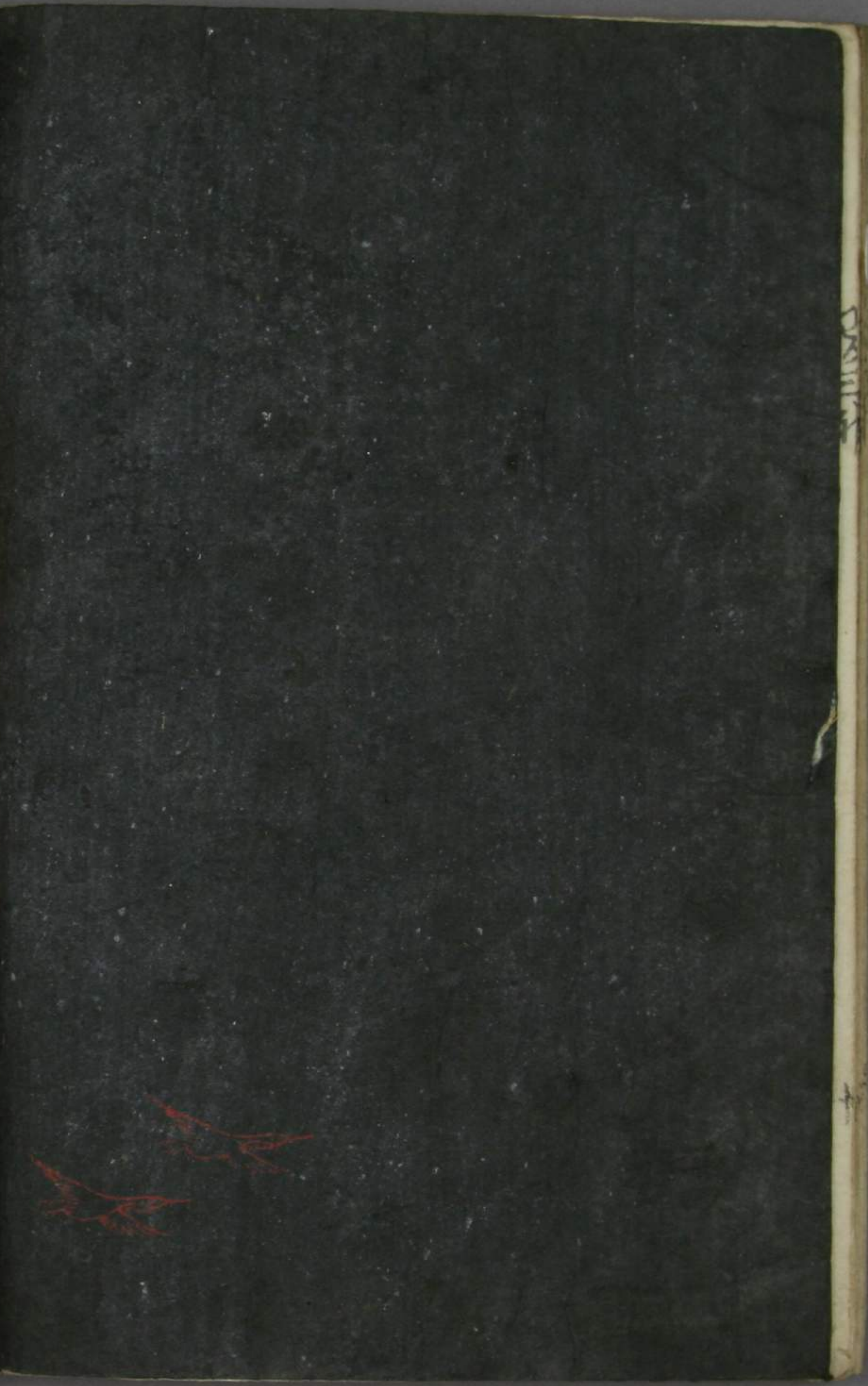
此の画は、泉晁の筆力と神韻の一斑を窺ふことが出来る。泉晁の画は、その筆力と神韻の一斑を窺ふことが出来る。

泉晁



文政亥春新板
若狭屋與市梓

之
来由
後編





夢入の口はしるしに...
あつたは...
あつたは...
あつたは...
あつたは...



あつたは...
あつたは...
あつたは...
あつたは...

十一



其神如少
早足疾風与方板

二人由縁

東竹離園化
夏昆魚
存篇





豊浦竹九

豊浦竹九

十一



豊浦竹九の物語
 豊浦竹九は、豊浦の村に生れたる者なり。幼少より武勇に長け、父の遺業を承継し、村の守護を勤む。一日、山に遊ばし、突如として妖鬼に逢ふ。妖鬼は、竹九の勇武を賞み、彼を我が眷属とす。竹九は、妖鬼の力に驚き、逃げ去る。然るに、妖鬼は、竹九を尋ね、竹九を我が眷属とす。竹九は、妖鬼の力に驚き、逃げ去る。然るに、妖鬼は、竹九を尋ね、竹九を我が眷属とす。竹九は、妖鬼の力に驚き、逃げ去る。然るに、妖鬼は、竹九を尋ね、竹九を我が眷属とす。

あはれいん
 のり
 のり
 のり



あはれいん
 のり
 のり
 のり



あはれいん

十三



卷之四

Handwritten text in vertical columns, likely a preface or commentary related to the illustration.



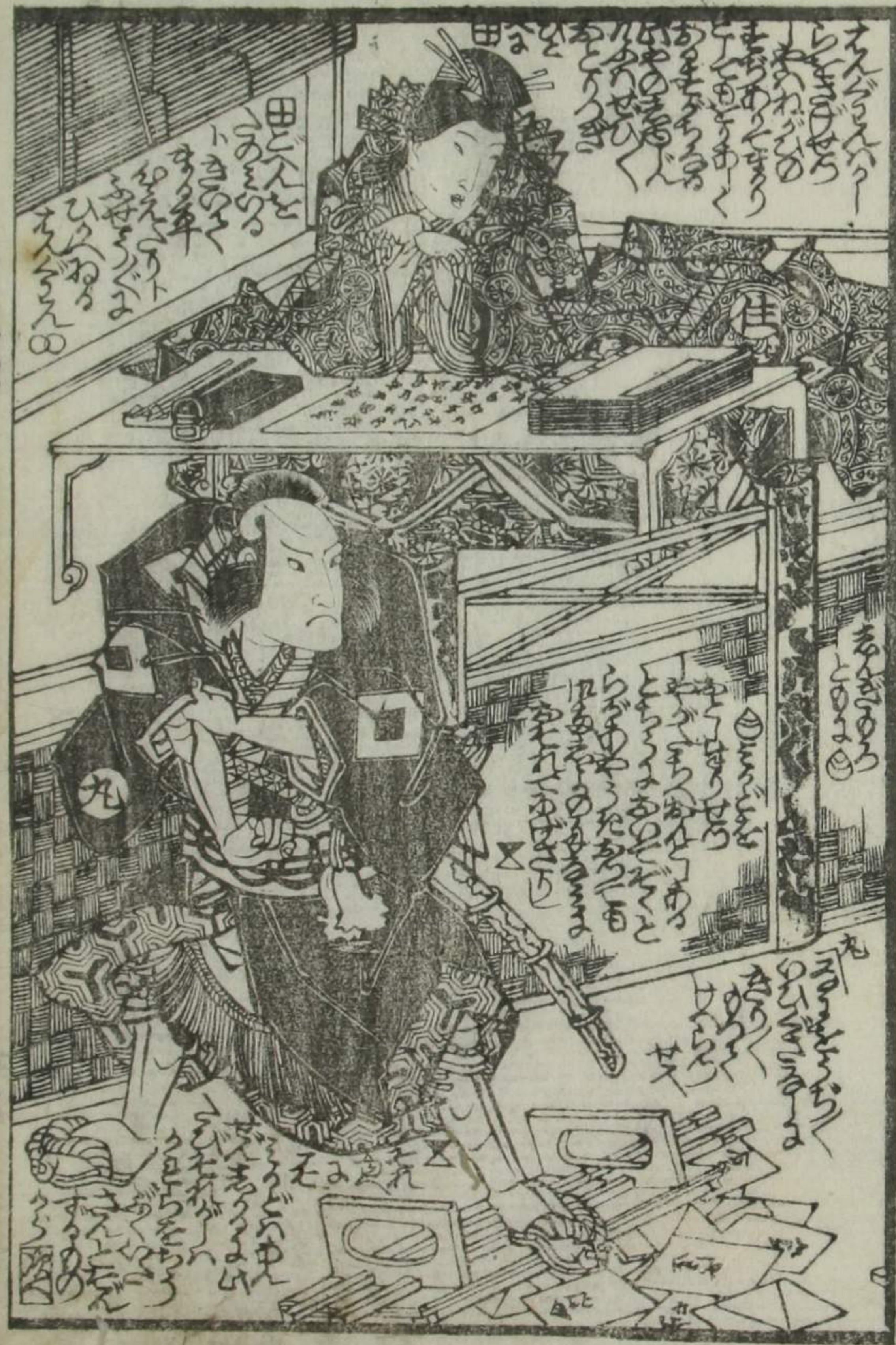
Additional handwritten text located below the main illustration on the left page.

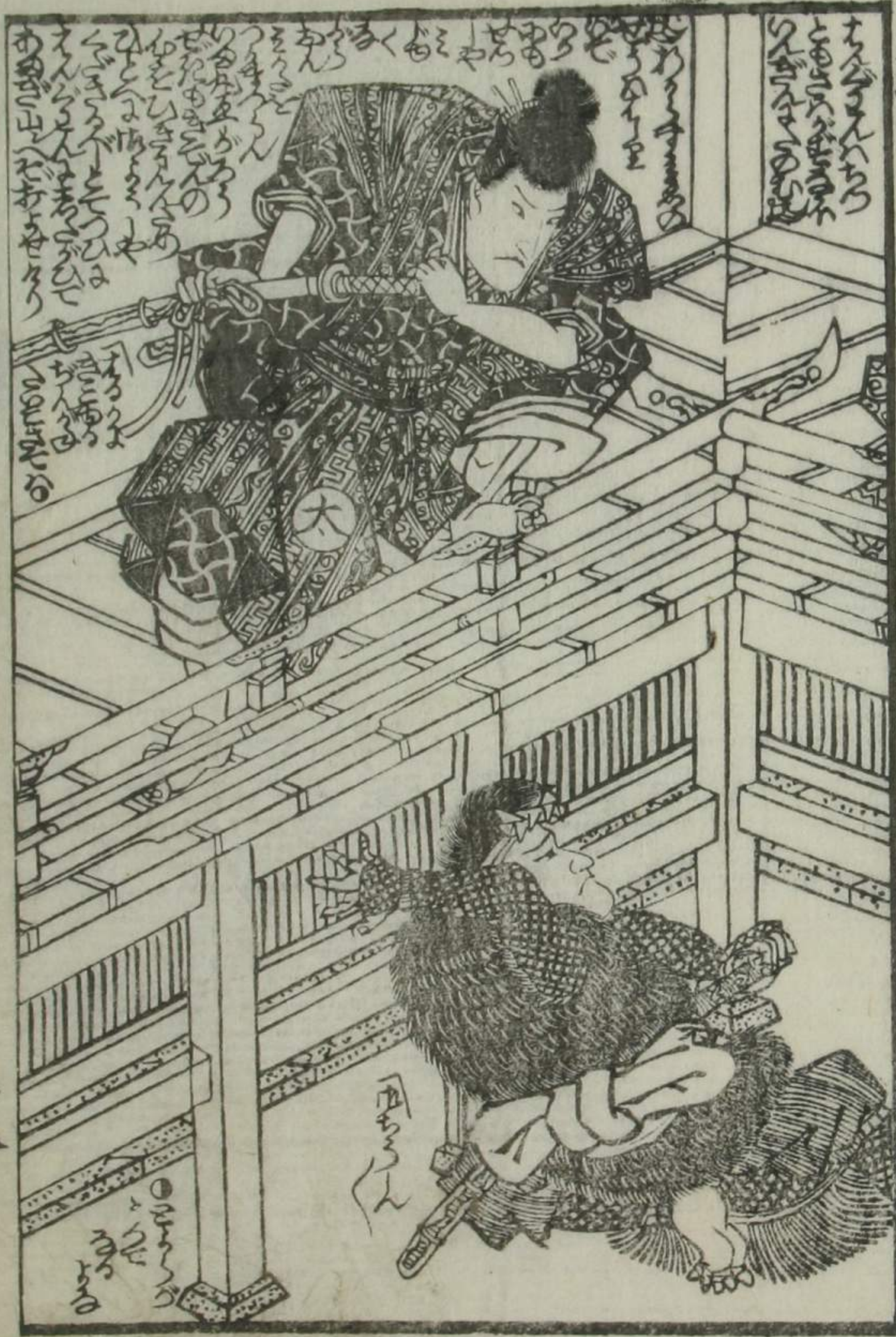


新下駄屋敷山々
三河屋五成兵衛

Handwritten text on the right edge of the page.

十五





十七

十七





おん
おん
おん

おん
おん
おん



おん
おん
おん

おん
おん
おん

おん
おん
おん

文政十丁亥新春新鐫目錄

浪花 四家怪談後日譚 全尾上梅華作
 土産 意角力赤繩取組 北尾重政画
 和歌 三冬之盃 瀬川路考作 山藪の茶
 美艷仙女香 江戸錦繪招 團扇問屋 出来
 風流後半切箱入 風流東千代紙 所進物
 地本問屋 若林堂 芝神明前三島所 若扶屋與市版



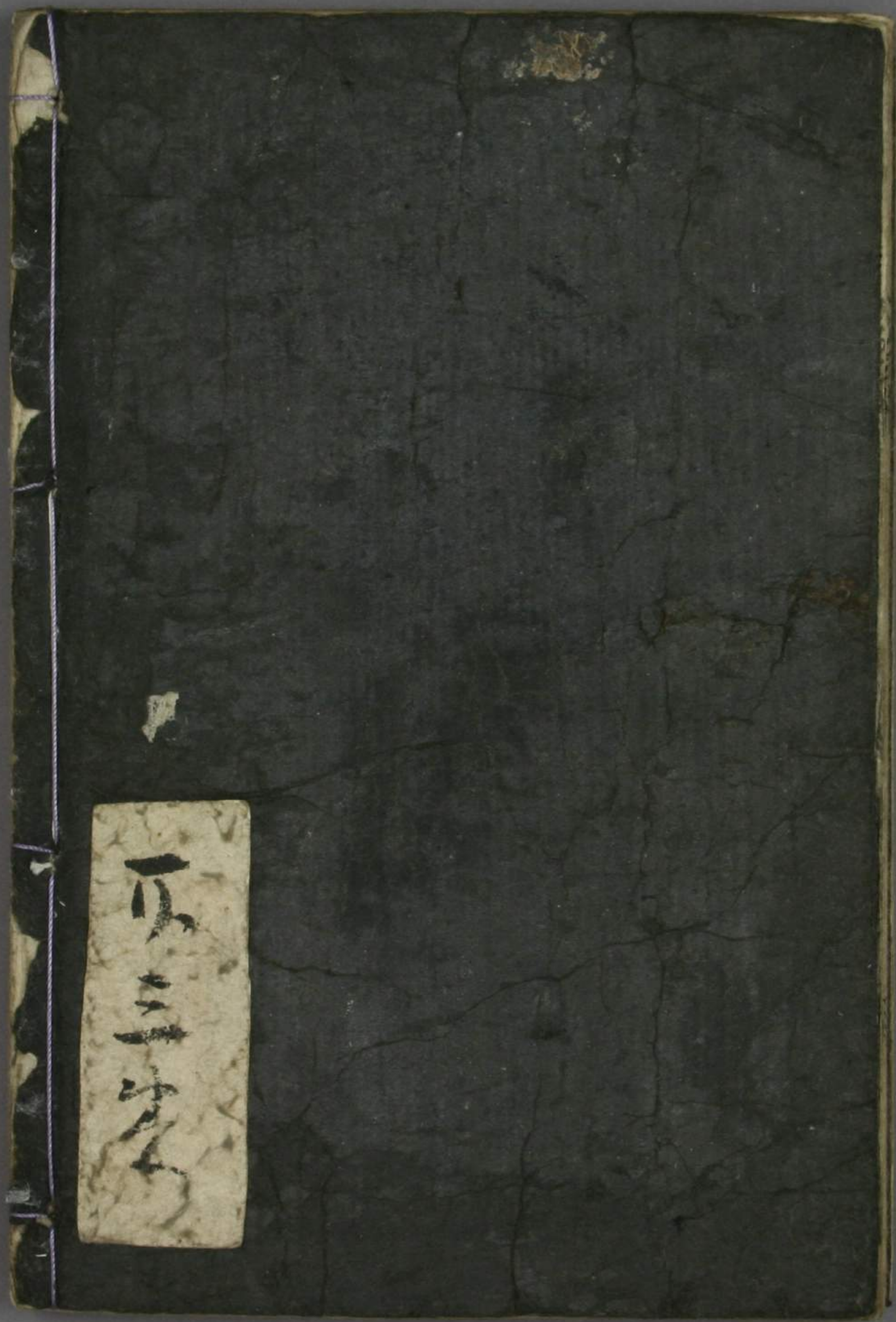
和歌三人の圖

瀨川路考作

英泉 自齋泉晁画

筆畊谷金川

天女... 和歌... 扇... 晁画... 英泉... 自齋... 泉晁... 画... 筆畊... 谷金川



三才圖會